

「生活から見たウ蝕予防」—カウンセリングの実際— “定期診査について”

高尾 由美（にしもと小児歯科）

小児は日々、心身ともに成長発育し口腔状態も変化していく。また小児をとりまく環境も、時の流れ成長とともに変化する。小児における定期診査では、齲蝕のチェック、処置後の経過観察、歯周組織、咬合、口腔機能のチェックはもちろんのこと、前回までの予防指導効果の確認や、刻々と変化している生活環境や習慣を把握した上で、将来の予測をふまえた十分な指導や予防処置をおこなうことが必要である。

小児をとりまく生活環境にはさまざまな要因があり、家族構成、保護者や主たる養育者の違い、保護者の職業などの他に、小児のかよっている保育園や幼稚園、小・中学校などの教育機関、また地域性などの環境因子ばかりではなく、保護者の育児や歯科に関する意識や認識の差、また小児自身の年齢や出生順位なども、重要な要因である。

そこで今回、小児をとりまく種々の生活環境の分類をおこなった上で、指導をおこないやすい環境、指導が困難な環境などをあげて、実際にどのような指導をおこなったか、指導時における医院側の問題点や、患者側の問題点について、また指導後の変化やこれからの課題について述べる。

実際、私達が出逢ったすべての症例に対して、的確な指導を行い、成果が得られたわけではなく、指導の失敗例もあるが、これらを今後の糧として、より充実した指導をおこない、子供たちの口腔の健康を見守っていきたい。